

2019年度 学会発表(症例報告は除く)

番号	氏名	発表課題名	学会名(場所・年月)
1	Rai Fujimoto	A first case of LTP syndrome in JAPAN	EAACI congress2019,Lisbon(2019.6.1~6.5)
2	Yoko Kataoka	Treatment strategy to achieve long-term control (LTC) of atopic dermatitis	第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋市 (2019.6.6~6.9)
3	片岡葉子	アトピー性皮膚炎(AD)患者の重症度, 治療アウトカム評価法のスタンダードを学ぶ	第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋市 (2019.6.6~6.9)
4	片岡葉子	アトピー性皮膚炎のprecision medicine 事始~分子標的薬登場後のバイオマーカーTARCの意義~	第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋市 (2019.6.6~6.9)
5	佐伯秀久 ¹⁾ , 加藤則人 ²⁾ , 片岡葉子 ³⁾ , 江藤隆史 ⁴⁾ , 手良向聡 ⁵⁾ , 高木弘毅 ⁶⁾ , 藤田浩之 ⁶⁾ , M Ardelanu ⁷⁾ , E Rizova ⁶⁾ , 有馬和彦 ⁶⁾ (日本医科大学 ¹⁾ , 京都府立医科大学 ²⁾ , 大阪はびきの医療センター ³⁾ , 東京通信病院 ⁴⁾ , 京都府立医科大学生物統計学 ⁵⁾ , サノフィ株式会社 ⁶⁾ , リジェネロン ⁷⁾)	中等~重症アトピー性皮膚炎成人患者の長期前向き疾患観察研究:1年中間解析	第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋市 (2019.6.6~6.9)
6	秀道広 ¹⁾ , 片岡葉子 ²⁾ , 梶島健治 ³⁾ , 中原剛士 ⁴⁾ , 加藤則人 ⁵⁾ , 江藤隆史 ⁶⁾ , 藤田浩之 ⁷⁾ , M Ardelanu ⁸⁾ , LA Beck ⁹⁾ , M Deleuran ¹⁰⁾ (広島大学 ¹⁾ , 大阪はびきの医療センター ²⁾ , 京都大学 ³⁾ , 九州大学 ⁴⁾ , 京都府立医科大学 ⁵⁾ , 東京通信病院 ⁶⁾ , サノフィ株式会社 ⁷⁾ , リジェネロン ⁸⁾ , ロチェスター大学 ⁹⁾ , オーフス大学 ¹⁰⁾)	アトピー性皮膚炎に対するDupilumabの長期非盲検試験:日本人における安全性・有効性の中間解析	第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋市 (2019.6.6~6.9)
7	片岡葉子 ¹⁾ , 加藤則人 ²⁾ , 佐伯秀久 ³⁾ , 江藤隆史 ⁴⁾ , 手良向聡 ⁵⁾ , 高木弘毅 ⁶⁾ , 藤田浩之 ⁶⁾ , M Ardelanu ⁷⁾ , E Rizova ⁶⁾ , 有馬和彦 ⁶⁾ (大阪はびきの医療センター ¹⁾ , 京都府立医科大学 ²⁾ , 日本医科大学 ³⁾ , 東京通信病院 ⁴⁾ , 京都府立医科大学生物統計学 ⁵⁾ , サノフィ株式会社 ⁶⁾ , リジェネロン ⁷⁾)	アトピー性皮膚炎患者の長期前向き疾患観察研究:治療反応に影響する因子解析	第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋市 (2019.6.6~6.9)
8	加藤則人 ¹⁾ , 佐伯秀久 ²⁾ , 片岡葉子 ³⁾ , 江藤隆史 ⁴⁾ , 手良向聡 ⁵⁾ , 田嶋雄樹 ⁶⁾ , 藤田浩之 ⁶⁾ , M Ardelanu ⁷⁾ , E Rizova ⁶⁾ , 有馬和彦 ⁶⁾ (京都府立医科大学 ¹⁾ , 日本医科大学 ²⁾ , 大阪はびきの医療センター ³⁾ , 東京通信病院 ⁴⁾ , 京都府立医科大学生物統計学 ⁵⁾ , サノフィ株式会社 ⁶⁾ , リジェネロン ⁷⁾)	アトピー性皮膚炎患者の長期前向き疾患観察研究:各種重度評価指標間の相関を探る	第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋市 (2019.6.6~6.9)
9	片岡葉子	視診:皮膚を診る. 細胞レベルで炎症を見通す.	第68回日本アレルギー学会学術大会, 東京 (2019.6.14-16)
10	神谷香, 藤本雷, 坂本幸子, 岸田寛子, 執行彩希, 片岡葉子	2歳未満のアトピー性皮膚炎患者に対するタクロリムス0.03%軟膏外用の有効性と安全性の検討	第68回日本アレルギー学会学術大会, 東京 (2019.6.14-16)
11	片岡葉子	長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療戦略	第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 金沢市 (2019.10.6)
12	藤本雷, 川崎英史, 坂本幸子, 執行彩希, 白井洋彦, 片岡葉子	ヒト型抗ヒトIL-4/13受容体モノクローナル抗体によるアトピー性皮膚炎治療患者20例に発症した結膜炎の重症度予測因子の検討	第84回臨床アレルギー研究会(関西), 大阪市 (2019.11.9)

2019年度 学会発表(症例報告は除く)

番号	氏名	発表課題名	学会名(場所・年月)
13	片岡葉子	アトピー性皮膚炎治療の進歩とDupilumabの臨床プロファイル	第2回日本眼科アレルギー学会, 東京(2019.11.9)
14	白井洋彦、藤本雷、川崎英史、坂本幸子、執行彩希、片岡葉子	デュピルマブによるアトピー性皮膚炎治療患者に発症した結膜炎の重症度予測因子の検討	第49回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会, 横浜市(2019.11.30)
15	中原剛士 ¹⁾ 、加藤則人 ²⁾ 、片岡葉子 ³⁾ 、秀道広 ⁴⁾ 、佐伯秀久 ⁵⁾ 、藤田浩之 ⁶⁾ 、有馬和彦 ⁶⁾ 、Chen Z ⁷⁾ 、Rossi AB ⁸⁾ (九州大学 ¹⁾ 、京都府立医科大学 ²⁾ 、大阪はびきの医療センター ³⁾ 、広島大学 ⁴⁾ 、日本医科大学 ⁵⁾ 、サノフィ株式会社 ⁶⁾ 、リジェネロン ⁷⁾)	成人アトピー性皮膚炎患者に対するDupilumabの国際共同第3相試験(SOLO1, CHRONOS): 日本人部分集団における部位別解析	第49回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会, 横浜市(2019.11.30)
16	金子栄 ¹⁾ 、中原剛士 ²⁾ 、室田浩之 ³⁾ 、片岡葉子 ⁴⁾ 、各務竹康 ⁵⁾ 、加藤則人 ⁶⁾ (島根大学 ¹⁾ 、九州大学 ²⁾ 、長崎大学 ³⁾ 、大阪はびきの医療センター ⁴⁾ 、福島県立医科大学衛生学・予防学 ⁵⁾ 、京都府立医科大学 ⁶⁾)	医師に対するアトピー性皮膚炎の診療実態調査について	第49回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会, 横浜市(2019.11.30)
17	前原恵里子、藤本雷、執行彩希、坂本幸子、川崎英史、白井洋彦、片岡葉子	シタフロキサシンによる光線性白斑黒皮症	第476回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市(2019.12.7)
18	片岡葉子	アトピー性皮膚炎治療のゴールを再考する。Dupilumabによる治療のゴールを考える。	アトピー性皮膚炎治療研究会第25回シンポジウム, 盛岡市(2020.2.9)
19	藤本雷、川崎英史、坂本幸子、執行彩希、白井洋彦、片岡葉子	デュピルマブ Rapid responder におけるアトピー性皮膚炎の臨床病型	アトピー性皮膚炎治療研究会第25回シンポジウム, 盛岡市(2020.2.8)
20	片岡葉子	長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療戦略	第27回佐賀県アレルギー講習会, 佐賀市(2020.2.13)
21	藤本 雷	重症アトピー性皮膚炎-デュピルマブ ハイレスポンダーのフェノタイプ-	第16回関西皮膚科臨床研究会, 大阪市(2020.2.15)